

# YAMAKADO NEWSLETTER

NO.190

2015/09/23

山門水源の森を次の世代に引き継ぐ会

## どこまで進むシカの食害



竜ヶ岳のシカの群れ(15/07/12)

PHOTO BY I.NISHIKAWA



どの観察地点もシカの食害が広がっている

鈴鹿山脈の霊仙山・御池岳の食害のすさまじさについては既号に書きました。さらに南の竜ヶ岳で西川会員が撮影したのが上の画像です。山稜部のササは食い尽くされ、削皮で立ち枯れた木々が目立ちます。この画像の中には85頭のシカが写っています。手前のササ原では、優雅にササを喰うシカが見えます。四六時中このような採餌が行われているわけですから、短期間にササが消滅することは理解できます。最近滋賀県下の左図の●印を観察しましたが何処も同じような食害状態です。これで生物多様性が保全出来るとはとうてい思えません。

山門水源の森で食害で絶滅に瀕している種のわかりやすい例は、アケボノソウとミヤコアザミです。かつて何カ所でも群生していたアケボノソウは、今では森の中では全く見られません。辛うじて採種して育種した株が付属湿地に残るのみです。ミヤコアザミは、これ又採種・現地育種した株を防獣ネットで囲って維持しているのが現状です。ミツガシワもまた同じ状態です。このような現象は、滋賀県下の他の場

所でも同じです。このような「生態系の変化は過去にもあったはずで、それは自然が修復する」という意見がありますが、現況を見る限りそのような楽観論は通用しそうもありません。こと1種や2種の問題では無く、食物連鎖を考えれば「シカの食害」が生態系に及ぼす影響はもっと重大です。



アケボノソウ



ミヤコアザミ



保全作業は目白押し

広い森の保全作業は多様でどれだけ人出があっても足りないのが現状です。滋賀県によって「山門水源の森」として整備されてから 17 年が経過し、当初設置された木



腐食した木柵の解体(15/09/04)



木柵の代わりにプラ杭と虎ロープ設置(15/08/26)



湿原内水路の下浸防止堰堤設置(15/08/26)



越流部分に築堤(15/09/16)



北部湿原奥浚渫作業越流部分の築堤(15/09/19)



スキのつぼ刈り(15/09/16)



四季の森急階段改修作業(15/09/10)



緩やかな観察コースに変貌(15/09/16)



塗装前



解説版に防腐材塗装(15/09/14)



塗装後



ユキバツバキ調査区設定作業(15/09/19)



シカの浸入口

毎日の防獣ネット巡視

柵や展望台・解説版の寿命ということも加わり保全作業も多忙を極めています。しかし老朽化した施設の改修や補強にばかり手をとられては「森の生物多様性」を維持できません。基礎となる調査研究にも力を注がねばなりません。そんな調査の 1 つが「ユキバツバキ」の調査です。現在ユキバツバキ分布域に 10m 四方の調査区を全域に設置する作業と同時に 1 株ずつに標識を付ける作業を進めています。一方で春に 1 回目を実施したシカの生息数(糞粒調査)を秋にも計画しています。「山門水源の森 2050」プロジェクトに基づく夢ある森づくりです。